

お母さんは二人分

三重県 桑名市立城東小学校 四年

水谷 友亮
みずたに ゆうすけ

ぼくのお父さんは、ぼくが四才の時、病気でなくなりまし
た。その時から、お母さんは、お父さんと二人分になりました。

お母さんはかんごしです。お父さんがなくなつてから、生活
していくために、かんご学校へ行つてしかくを取りました。か
んご学校は、勉強や実習でとてもいそがしくて、ぼくは時々、ば
あちゃんの家にとまっています。今でもおほえているのは、
夜、お母さんが帰つてしまう時、けん関でぼくが泣いて通せん
ぼしたり、車に乗りこんで、お母さんをこまらせた事です。今な
ら、お父さんの分をお母さんが働くために、学校で一生けん命が
んばつていた事や、お母さんもつらかつた事がわかりますが、そ
の時のぼくは、ただただお母さんといっしょにいたくて、いっ
しょにねむりたくて、わがままを言いました。連れて帰つてく
れて、ぼくがねるまでいっしょに遊んでくれて、夜中に勉強して
いたお母さん。やさしくて強いと思います。

かんごしになつてからは、帰りもおそくて、休みもいなくて、
ぼくはいつもばあちゃんの家でした。さみしくて悲しくて、ぼ
くの心の中で、(ママなんかいなくなればいい。)という声が聞
こえるようになりました。お母さんに話したら、「ママが死ん
でもええの。」と悲しそうな顔になりました。「死んだらいやや、
でも聞こえるんやもん。」と泣きながら言いました。そのあと、

お母さんは働く病院を変えました。今は、五時半に帰つてくる
し、日曜も休みがあります。夜さんの時は、ばあちゃんの家にと
まるけど、ぼくの心の中の変な声は消えました。また、ぼくは、
わがままを言ったのかもしれない。でも、お母さんは、すぐ病
院を変えて、ぼくを守つてくれたのだと思います。

お父さんは、おこるとこわい人だったそうです。そして最
近、お母さんは、おこるとめちやくちやくわいです。たぶん、世
界で一番。ぼくは、ぜつたい泣きます。でも、お母さんの声は
お父さんの声。お父さんがいたら、きつとこうやって、しから
れた。そして、そのあと、お母さんがぎゅつとしてくれる。お
母さんの中にお父さんがいます。

お父さんがよく言っていた言葉は、「すんだ事にすんな。
次どうするかや。」です。ぼくは、この言葉が大好きで、これだ
とお母さんをはげまします。お母さんの言葉は、「やればでき
る。」「ピンチはチャンス。」「明日はきつといい日になる。」
です。この言葉のおかげで、ぼくは、何度も元気が出ました。

お母さんはお父さんと二人分。体重もきつと二人分。おこ
る時も、笑う時も、ぎゅつとしてくれる時も二人分。今、ぼくは
さみしくありません。三人いっしょだからです。お父さん、そ
ばで見えていてね。お母さん、いつもありがとう。大好きです。